

電験第 3 種スイスイわかる 法規 正誤表 コード 11805 2 版 1 刷  
(作成日 2013/6/5)

頁	場所	誤	正
7	ココに注目 2行目	合計が20kW 未満で	合計が50kW 未満で
7	ココに注目 3行目	太陽電池・風力発電設備	太陽電池発電設備で出力50kW 未満および風力発電設備
9	③ の解説 4行目	合計が20	合計が50
9	③ の解説 6行目	①太陽電池・風力発電設備	①太陽電池発電設備で出力50 kW 未満および風力発電設備
96	① の解答	(2)	(3)

# 電験第3種スイスイわかる 法規 追補・正誤表 コード 11805 2版3刷 (作成日 2017/7/4)

発行後の法改正に合わせて、下記に追補および正誤の修正を示します。

ページ	場所	誤	正
5	③の問題 1行目	電気事業者は	一般送配電事業者は
	③の解説 1行目	電気事業者は	一般送配電事業者は
	ココに注目 全文訂正	<p>○電気事業とは？ 電気事業は、平成26年6月の電気事業法の改正により、次の5種類の電気事業となりました。</p> <p>①小売電気事業：小売供給（一般の需要に応じ電気を供給すること）を行う事業</p> <p>②一般送配電事業：自らが維持し、及び運用する送電用及び配電用の電気工作物によりその供給区域において託送供給及び発電量調整供給を行う事業。</p> <p>③送電事業：自らが維持し、及び運用する送電用の電気工作物により一般送配電事業者に振替供給を行う事業</p> <p>④特定送配電事業：自らが維持し、及び運用する送電用及び配電用の電気工作物により特定の供給地点において小売供給又は小売電気事業若しくは一般送配電事業の用に供するための電気に係る託送供給を行う事業。</p> <p>⑤発電事業：自らが維持し、及び運用する発電用の電気工作物を用いて小売電気事業、一般送配電事業又は特定送配電事業の用に供するための電気を発電する事業。</p>	
10	1項7行目	③損壊により一般電気事業者の電気の供給に	③損壊により一般送配電事業者の電気の供給に
	1項7行目の下に追加	④事業用電気工作物が一般送配電事業の用に供される場合にあっては、その事業用電気工作物の損壊によりその一般送配電事業に係る電気の供給に著しい支障を生じないようにすること。	
12	①の問題 7行目	一般電気事業者の	一般送配電事業者の
	①の解説 6行目	一般電気事業者の	一般送配電事業者の
18	冒頭の箇中	(48時間以内) 電話・電報など	(24時間以内) 電話など
	1項表の③ 訂正	③ 電気工作物の破損又は電気工作物の誤操作若しくは電気工作物を操作しないことにより、他の物件に損傷を与え、又はその機能の全部又は一部を損なわせた事故	
19	2項箇中	48時間以内	24時間以内

ページ	場所	誤	正
20	①の解説 1行目～	関係報告規則第3条で、感電死傷事故の場合は、事故の発生を知ったときから48時間以内に	関係報告規則第3条で、死亡する感電死傷事故の場合は、事故の発生を知ったときから24時間以内に
	①の(答)	(3)	(1)
21	ココに注目 全文訂正	○電気関係報告規則の一部改正 電気関係報告規則が平成28年3月28日に経済産業省令第40号により改正され、平成28年4月1日より施行されました。 この改正により事故報告の速報の報告期限が事故を知ってから24時間以内可能な限り速やかに（従来は48時間以内）と「発電支障事故」の報告義務が追加されたことが大きな改正点です。 規制緩和などの関係から法律改正があり、過去に出題例のある問題は変更点を確認しておきましょう。	
109	3項6行目の下に追加	ハ 暗きよ内に施設し、地中電線相互の離隔距離が、0.1 m以上であること（電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈に基づく難燃性試験に適合する被覆等の耐燃措置を施した使用電圧170 kV未満の地中電線の場合に限る.）	
109	3項7行目	(3) 地中電線が、不燃性の被覆を有すること、あるいは、堅ろうな自称性のある難燃性の管に収められていること。	(3) いずれかの地中電線が、不燃性の被覆を有する又は堅ろうな不燃性の管に収められているときは、地中電線相互の離隔距離が、0 m以上であること。 (4) それぞれの地中電線が、自消性のある難燃性の被覆を有する又は堅ろうな自消性のある難燃性の管に収められているときは、地中電線相互の離隔距離が、0 m以上であること。
112	チャレンジ問題①	低圧地中電線と高圧地中電線とが接近するとき、次の場合は地中電線相互の離隔距離が、0 m以上であること。 ① いずれかの地中電線が、 <input type="text" value="ア"/> の被覆を有する又は堅ろうな <input type="text" value="ア"/> の管に収められている場合 ② それぞれの地中電線が、 <input type="text" value="イ"/> のある <input type="text" value="ウ"/> の被覆を有する又は堅ろうな <input type="text" value="イ"/> のある管に収められている場合 上記の記述中の空白箇所(ア)、(イ)及び(ウ)に記入する字句として、正しいものを組み合わせるのは次のうちどれか。 (1) (ア) 準不燃性 (イ) 自消性 (ウ) 不燃性 (2) (ア) 難燃性 (イ) 自消性 (ウ) 準不燃性 (3) (ア) 不燃性 (イ) 防炎性 (ウ) 準不燃性 (4) (ア) 不燃性 (イ) 自消性 (ウ) 難燃性 (5) (ア) 難燃性 (イ) 防炎性 (ウ) 不燃性	

ページ	場所	誤	正
158	①の解説 5行目	$t = \frac{900}{900+7.2+8} = 12.5h$	$t = \frac{15\,000-10\,000}{400} = 12.5h$
162	2行目～ 問題1の解 答・解説 全文訂正	<p>問題1 (4)</p> <p>解釈第125条「地中電線と他の地中電線等との接近又は交差」第1項において、次のように地中電線が自消性のある難燃性以上の被覆のあるもの又は管に収められている場合は、地中電線相互の離隔距離が、0 m以上であることと改正（平成28年9月13日）されました。</p> <p>① いずれかの地中電線が、次のいずれかに該当する場合は、地中電線相互の離隔距離が、0 m以上であること。</p> <p>イ 不燃性の被覆を有すること。</p> <p>ロ 堅ろうな不燃性の管に収められていること。</p> <p>② それぞれの地中電線が、次のいずれかに該当するものである場合は、地中電線相互の離隔距離が、0 m以上であること。</p> <p>イ 自消性のある難燃性の被覆を有すること。</p> <p>ロ 堅ろうな自消性のある難燃性の管に収められていること。</p>	

新たに判明しました正誤は、小社ホームページに掲載いたします。

下記 URL にアクセスして「キーワード検索」に書名を入力し、詳細ページでご確認ください。

<http://www.denkishoin.co.jp/>